令和4年度　　学校評価・自己評価表

神石高原町立来見小学校

教育目標 経営目標	【学校教育目標】 自ら学び　自ら考え　協働できる　心豊かな子供の育成 【学校経営目標】 「町を育てる学力」を基盤とした「郷土を愛する子供」の育成	めざす 児童像	○自ら考え行動することができる（主体性） ○困難なことにも諦めないで取り組むことができる（粘り強さ） ○自分の思いや考えを伝えることができる（表現力） ○相手の気持ちを大切にし，共同して物事を行うことができる（思いやり・協同性） ○地域を知り，自分を取り巻く人や環境に感謝することができる（郷土愛・感謝）

評価計画						自己評価					学校関係者評価			
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成の方策 （具体的な取組内容）	評価項目・指標	目標値	時期	達成値	評価	達成状況	改善方策	評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	コメント
確かな学力	「基礎・基本」の確実な習得を担保しながら，協働的な深い学びを実現する。	「主体性を発揮する児童の育成」を意識した授業づくりに取り組む。	・個に応じた指導を充実させる。 （低学年を中心とした学力補充や全校で取り組むのびのびタイムにより，基礎基本を定着させるとともに発展問題などにも取り組ませる）	国語科・算数科のテストにおいて，思考・判断・表現の観点が８０点以上の児童の割合	80%以上	中間9月	80.1%	B	国語73.4%算数54.7%の達成状況であった。教科間での差が大きいが，個人差も大きい。目標値を到達できていない児童に着目して取り組みを進めていく。	個に応じた指導を充実させる。 低学年：学力補充の指導体制を整える。指導を担任，丸付けをその他の者でできるようにしていく。 高学年：家庭学習においてプリントなどを活用して学力補充を進めていく。すき間時間で基礎基本の徹底をする。	84%	16%		□どの子も達成感をもてるように，教科間・学力補充の体制で引き続き取り組んでもらいたい。 □平均を評価すると一人一人の伸びを見落としがちになるので個別の視点も大切にしてほしい。 □個々への取組方法を再検討してはどうか。
						最終2月	76.5%	C	国語71.9%算数50%の達成状況であった。前回に引き続き，教科間での差が大きいが，個人差も大きい。数年単位での計画的な指導を続けていく必要がある。	上記のものに加えて，応用力を問うような問題や読解問題に取り組む。また，自主学習において，予習・復習の取り組みを行えるよう声掛けをしていく。一朝一夕の取り組みにせず，児童に最適なものをその時々で選択したり児童の状況も鑑みたりしながら，児童一人一人にカがつく指導を徹底していく。				
			・生活科、総合的な学習の時間の充実を図る。 （PBL「プロジェクト型学習」の考え方を生かした単元開発・探究的な学習の流れカードの活用・ふりかえりにおいて、次時に向けた見通しや思いを書かせる。）	児童アンケートの「主体的に取り組む」項目において，肯定的評価をする児童の割合	80%以上	中間9月	103.5%	A	児童アンケートの育てたい資質・能力の「振り返り力」の項目において，肯定的評価をする児童の割合は,82.8%だった。目標値を達成したので，次回は，育てたい資質・能力の３つの項目「課題発見力・課題解決力・振り返り力」において，肯定的評価をする児童の割合80%を目指す。	今後さらに,各教科等との関連を図りながら教材研究を深め・進めるとともに,年度末の各学年のゴールへの見通しをもって，取り組んでいく。また，振り返りにおいて視点を与える。	100%			○振り返りをすることで，反省点が見つかり，児童の自己評価が下がることもあるのではないか。 □教員のアドバイスや声掛けも大切にしてほしい。
						最終2月	106.6%	A	児童アンケートの育てたい資質・能力の「振り返り力」の項目において，肯定的評価をする児童の割合は86.9%だった。また，「課題発見力」は86%，「課題解決力」は83.2%だった。	指定事業を受け,取り組んでいく中で，生活・総合に対しての考え方が全職員で共有できている。その成果として児童アンケートの結果にもつながっていると考える。しかし，否定的に捉えている児童もいるため，児童一人ひとりの実態を今後も把握し，指導を継続していく。				
豊かな心	思いやりをもち，前向きに判断し行動する児童の育成を図る。	「自分たちの生活をよりよくするためにどうすれば良いかを考え実践できる児童の育成」に取り組む。	・毎月第3週をあいさつ週間とし,個人の目標を書くチャレンジカードに挨拶に関する目標を書かせ意識付けをする。 ・児童会を中心に挨拶に関するイベントを計画実施する。 ・学校や学級で,頑張っている姿を具体的に評価し価値付けを行う。	職員の見取りアンケート（課題がある項目）において，肯定的評価をする職員の割合	70%以上	中間9月	103%	A	児童アンケートのあいさつ・言葉遣いの項目において，職員の見取りアンケートの肯定的評価の割合が72.7%だった。目標値は達成していたが，朝児童を出迎えている先生や学校に来られた方に対して，あいさつをされたから返したり，そのまま挨拶を返さなかったりする児童もいた。とくに朝の登校時の挨拶は元気のない児童が多い。挨拶についての見取りを８０%にし，今後も継続して自分から進んで挨拶をするように声掛け等を行う。	朝の挨拶の状況を担当教員が見取り，その結果を集会等で伝え，各学年で取り組みを考えさせ実施させる。実施後の結果を再度担当教員が見取り，その成果を再度確認させる。さらにあいさつだけでなく，１学期の終わりに実施した児童アンケートの項目の中で，肯定的評価の低かった親切・協力の項目において，肯定的な評価の割合を７０%以上にすることにも取り組んでいく。	100%			○周りの大人たちに対する優しい心が育っているように感じる。 ○挨拶のできる子どもが増えている。 ●地域の人との交流がもっとあればよい。 □引き続き目標をもたせ，自ら考える場づくりに取り組んでもらいたい。
					80%以上	最終2月	100%	A	児童アンケートのあいさつ・言葉遣いの項目において，職員の見取りアンケートの肯定的評価の割合が８０%だった。あいさつの状況を担当教員が見取り，それを基に各学年で取り組みを考えさせたり，児童会を中心にあいさつに関する目標の設定やイベントなどを実施したりすることで，自分から進んでしようとする姿が見られた。	３月の個人のチャレンジ目標は，あいさつに関するものを設定する。 今後も，教員による指導や声掛けをしていく。 取組について一時的な効果にとどまっているため，今後も継続した声掛けなどが必要である。				
			・毎月第３・４週目のチャレンジカードに親切・協力に関する目標を書かせ意識づけをする。 ・教師や児童同士の評価を取り入れる。		70%以上	中間9月								□あらゆる場面において肯定的評価をしていくことにより，自己肯定感を高めていってほしい。 □否定的な回答をする児童の気持ちを明らかにして取組を進めたほうがよい。
						最終2月	114%	A	児童アンケートの親切・協力の項目において，職員の見取りアンケートの肯定的評価の割合が８０%だった。チャレンジカードを活用し，人に優しくするためには何ができるのか具体的に考えている児童もいた。また，児童会を中心に，ハッピーカードで親切や協力を意識している児童を紹介することで，自分も頑張ってみようと思うきっかけができた。	今後も個人のチャレンジ目標を全校に紹介するとともに，教師による評価や児童同士の相互評価を充実させていく。また，否定的な回答をする児童もいるため，今後も児童同士の相互評価や教職員による声掛けを継続していく必要がある。	100%			
健やかな体	心身の健康・体力向上に自らチャレンジする児童の育成を図る。	「体を動かすことが楽しいと思える児童の育成」を意識した体力つくりの改善に取り組む。	・体力朝会の充実をはかる。 ・体力朝会や体育の授業の準備体操にACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れる ・全校レクを実施する。	新体カテスト生活アンケートにおいて，１日の運動時間が３０分以上の児童の割合	80%以上	中間9月	89%	B	新体カテストの「運動やスポーツをするときは１日にどのくらいの時間しますか（学校の体育の授業をのぞきます。）」項目において,30分以上運動をする児童の割合は,71.2%だった。目標値を達成していないので，取り組みを継続する。	外遊びの充実を一層図っていく。 月に２回全校外遊びの日を設定する。（月２回→週１回→週２回のように頻度を増やす。） 運動場にドッジボールやかたつむりジャンケンなどのラインを引いたり，道具の充実をして児童が運動できる環境を作る。	100%			○季節に合った体力向上のための取組がよい。ぜひ継続してほしい。 ○コロナで運動不足になる児童がいる中，いろいろな取組に子どもたちが意欲的に挑戦している。
						最終2月	98%	A	新体カテストの「運動やスポーツをするときは１日にどのくらいの時間しますか（学校の体育の授業をのぞきます。）」項目において,30分以上運動をする児童の割合は,78.5%だった。雪が降った日は，雪遊びを楽しむ姿が見られた。なわとびキングの開催日が近づいたら，なわとびの練習をする姿が見られた。	外遊びをしない児童が固定化している実態がある。休憩時間に室内遊びをしたり，宿題等の直しをしている。意識的に，外遊びの日を設定したり，体力つくり朝会や準備運動でACPを取り入れて，運動をすることが楽しいことを実感する取組を継続する。				
		生活リズムの習慣化等，基本的生活習慣の定着を図る。	・学級担任と連携した継続的・計画的な保健教育・保健学習を実施する。	生活リズムつくりカードにおいて，肯定的な評価をした児童の割合	80%以上	中間9月	102%	A	生活リズムつくり週間の「早寝・早起き・学習時刻」を守れた項目において,自分で決めた目標の時刻で生活することができた児童の割合は,81.6%だった。目標値を達成したので，次回は肯定的な評価をした児童の割合を90%以上を目指す。	個に応じた指導を充実する。 生活リズムつくりカードに意欲的に取り組むことができていない児童に対して，個別の保健指導を実施したり，保護者連携など丁寧な指導を行う。	100%			□家庭と連携を取りながら，今後も指導を進めてほしい。
						最終2月	109%	A	生活リズムつくり週間の「早寝・早起き・学習時刻」を守れた項目において,自分で決めた目標の時刻で生活することができた児童の割合は,87.2%だった。委員会活動や組織的な保健教育や保健学習を継続することで，児童の意識も保護者の意識も高まった。	個に応じた指導を丁寧にすることで，児童の意識が高まり，自分事として生活リズムを整えようとする姿が見られた。このことから，全体指導に併せて個別指導は継続をする必要がある。				
信頼される学校	教職員が健康で生き生きと働き，地域や保護者から信頼される学校を実現する。	業務改善に取組み児童と向き合う時間の確保と指導の充実を図る。	・見通しをもって仕事をする。 ・ＳＳＳを積極的に活用する。	学校における働き方アンケート「児童と向き合う時間が確保されている」の項目において肯定的評価をする教諭の割合	80%以上	中間9月	125%	A	肯定的評価をした教員は100%だった。一方で，どちらかと言えばあてはまると回答した教員が２５%，あてはまると回答した教員が６７%，よくあてはまると回答した教員は８%だった。	主任主事を中心に日ごろから業務改善に係る取組を提案していく。また，管理職は提案された案を積極的に採用できるようにし，よくあてはまると回答する教員の割合を増やす。	100%			○児童としっかり向き合える時間確保のために工夫されていることはいいと思う。 □児童と向き合うことの中心は授業なので，授業の中で個々の学びや伸びを認めていってほしい。
						最終2月	125%	A	肯定的評価をした教員は100%だった。よくあてはまると回答した教員が44%，あてはまると回答した教員が56%で，前回よりも向上することができた。	この数値を保てるよう，管理職や主任・主事を中心に，必要に応じた業務分担の見直しや，スクラップアンドビルドを積極的に行っていく。				
		広く学校の取組みを知ってもらう。	・学校だより・学級だよりを充実させる。 ・研究の経過をＨＰで発信する。	学級だよりの発行回数	月２回以上	中間9月	75%	C	月２回の発行ができた学級は６／８だった。一方で月４回のペースで発行できているクラスもある。	学級だより発行の意義を再確認するとともに，管理職が進捗状況を確認し，細目に確認を行っていく。	84%	16%		□保護者や地域のみなさんに思いや活動の様子を積極的に発信していくことで理解を深められると思うのでがんばってほしい。 □学級だよりで何を伝えたいか明確にしておくとよい。
						最終2月	88%	B	月２回の発行ができた学級は７／８だった。前回より改善は見られたが，全学級という目標は達成できなかった。	来年度は全学級が目標値を達成できるよう，月半ばでの進捗状況の把握や，視覚的に確認できるようにするなどの取組を行う。				

【自己評価　評価基準】
Ａ：９０%≦（目標達成）
Ｂ：８０%≦（ほぼ達成）＜９０%
Ｃ：６０%≦（もう少し）＜８０%　　Ｄ：（できていない）＜６０%

【学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である
ロ：自己評価は適正でない
ハ：分からない